

つよく、やさしく、カッコいいTCを目指して

あんぼ歯科クリニック

鈴木 亜美

歯科助手という仕事に就いて、もうすぐ10年が経とうとしている。

歯科助手とは、ドクターの横にいる人、院内の雑務をする人だと思っていたし、与えられた環境で自分なりに考え、アシスト業務にベストを尽くし、補綴の材料の説明をし、ドクターを助けられる存在になれたらその任務を全う出来ると思っていたし、ゴールもそこだと思っていた。しかし、歯科助手は国家資格があるわけではない。誰でも出来る仕事だと周りから思われることが本当は嫌だった。どうせ自分はこの程度のことしか出来ないのだ、と逃げることで自分自身を納得させようとしている思いが心の奥底にあった。

医院にTCを導入し始めた頃、先輩の見様見真似でカウンセリング業務をするようになった。

一人でカウンセリング業務を行っている先輩を見て、力になりたいと思ったし、沢山の業務を抱えていた先輩の負担を少しでも減らしてあげたいと思ったのがきっかけだ。今考えると、そこに患者様や医院を運営している院長の姿は無く、先輩を手伝っている自分に満足しているだけだったと思う。

しかし、毎日のようにカウンセリング業務をしていく中である感情が芽生えるようになった。保険治療の何十倍も費用がかかる自費治療を選んでくださった患者様に対し、本当に今の説明でよかったのだろうか。患者様は納得してくださったのだろうか。自己流で補綴説明をし、拙い知識を話している自分を恥ずかしく思った。自信と説得力を持って患者様に自費治療の良さを伝えたいと思い、学べる場所を探していた所、TCマスターカレッジに出会った。臨床現場のカウンセリングを学ぶことが出来、講師の方々は全て現役のTCで、少人数制のスクールという所にとっても魅力を感じ、自分の求めているものがここにあると確信した。

スクールが始まると、毎月大阪へ向かうのが楽しみで仕方なかった。学んだことを持ち帰り、医院で実践してみると、患者様のお役に立てていると思えるようなお言葉を掛けていただいたり、こんな私でも医院に貢献出来ているのかもしれないと思うようになり、少しずつ自分が成長していると実感することが出来たからだ。そして、鈴木先生が仰っていた、「いつまでも洗い物ばかりしていて欲しくない。」という一言を思い出す度に胸が熱くなる。「私は、患者様と医院に必要とされる存在になりたい。」そう気付くことができた、きっかけになった一言だ。

TCを導入している医院はまだ少なく、患者様はどのような治療方法があるのか、被せ物の種類についての情報を知らないまま治療を受け続けることは患者様にとって不幸でしかない。患者様の訴えに耳を傾け、共感し、寄り添う。将来、お口のことで困らないように情報を提供し、導いてあげる存在。患者様と医院の架け橋となる存在。それがTCの役割だと思う。

そして、TCレギュラーコースを受講して、TCとはただ補綴の材料を説明するだけの人ではないということに気が付いた。10年前の私は、歯を失ったあとの選択肢は入れ歯かブリッジになるという知識しかなかった。ブリッジが駄目になり、入れ歯になった患者様。入れ歯のバネを引っ掛けている歯が駄目になり、入れ歯を大きくして直す患者様。この光景を目にする度に、なぜ虫歯でも歯周病でもない歯が駄目になってしまうのか、理由がわからなかった。しかし、ロススパイラルと力のコントロールについて学び、歯を失う三つ目の理由を知ることができた。

私は、日本人の、歯に対する意識の低さを変えていきたい。治療の繰り返しで歯医者に行くのではなく、予防の繰り返しで来院していただき、大切な歯を一本でも多く残す手助けをしていきたい。

「私がやる！」

一本の歯に、どれだけの価値があるのかを、一人でも多くの患者様に伝えなければ、という使命感に駆られている。

鈴木先生が仰っている、「つよく、やさしく、カッコよく。」を目標に、臨床現場のカウンセリングについて学び、知識を深めれば深めるほど遙か向こうに私の理想の TC 像はある。

患者様に、「あなたの代わりはいない。」と書いていただけるような TC。

周りに、「TC 業務はあなたに任せるのが一番だ。」と言わせる、認めさせるほどの TC になりたい。

当然ながら理想とは程遠く、毎日が学びの連続だ。院長から教わること、患者様から教わること、スタッフから教わることもある。その中で、TC マスターカレッジに出会えたこと、鈴木先生に出会えたことで一つの道筋が出来たと思う。この 5 か月間、セミナーを受講したことは間違いなく私の人生の中で大きな学びとなり、自分に自信を持つための大きなきっかけになったと思う。

そして、私一人の力では TC 業務は成り立たない。沢山ある歯科医院の中で、当院を選んで来てくださっている患者様、いつも明るく優しく患者様の対応をしているスタッフ、患者様の思いを汲み取り共有してくれるスタッフ、勉強熱心で TC マスターカレッジの受講を快く快諾し、背中を押してくれた院長。このような環境で仕事ができることを誇りに思う。

自分の居場所はここだ、と胸を張って言えるように、周りへの感謝を忘れずに、「つよく、やさしく、カッコよく。」を目指し、また会いたいと思ってもらえるような魅力的な人間になるために内面を磨き、理想の TC 像に近付けるようにこれからも努力を重ねていきたい。そして、患者様の人生の一ページ関わっていることに感謝の気持ちを持って TC 業務に励んでいきたいと思う。

以上 2229 字